

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援事業所 子☆らぼ		
○保護者評価実施期間	令和6年11月28日		～ 令和6年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和6年11月28日		～ 令和6年12月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもへの療育の質の高さ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士・児童指導員のほか、作業療法士・言語聴覚士・公認心理師などの資格者が連携して、多角的に事例を検討している。 ・各種心理検査を用いて、客観的な評価ができる体制を構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が持つスキルが古くならないために、できるだけ新しい情報を集めながら、定期的な研修を実施している。 ・異なる資格者同士の価値観が衝突しないよう、管理者と児発管が窓口となって、事業所としての理念に合わせながら、プログラム内容に落とし込むようにしている。
2	保護者支援に力を入れている	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎サービスがないため、支援中は保護者が同席していることが多いので、小まめな会話やコミュニケーションを図ることで、親近感を高める努力をしている。 ・担当では解決しづらい相談内容でも、管理者や心理師が対応することで、「事業所として解決に向けて協力している」体制作りに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレや保護者支援の知識を職員研修の中でも実施することで、保護者のニーズに近づけるための努力を、事業所として取り組んでいる。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他機関との連携が少ないと感じる。	必要に応じて保健センターや所属所などと連携はしているが、定期的ではないことや、課題の優先度が高い幼児が優先されているため、事業所として得られる情報に偏りが生じることが考えられる。	所属所への見学は、定期的を実施することで、事業所外での過ごし方を直接確認できる機会を設定していく。
2			
3			